

日本産業技術教育学会は、 技術科の教師になる人の質保証をしています!

教員養成系大学・学部においては、教員として必要な資質・能力を備えた学生を送り出すための質の高い教育活動が求められています。 日本産業技術教育学会では、教員の質保証システム(技術科指導能力認定システム)を構築しました。

中学校の教科「技術」を担当する教員の質保証とは?

①教員として修得すべき知識や技能の基準を示しました。

修得基準

②その基準を踏まえて大学の授業を進めています。

大学の授業

質保証システム

④これらを日本産業技術教育学会が推進しています。

第三者機関

③知識や技能の修得状況の確認と認定を行っています。

認定試験

質保証のシステムを作る理由

教員養成の現状

- ・教員免許は、大学等で開講されている「課程 認定を受けた科目」を受講し、所定の単位を 修得することによって取得できます。
- ・一方、課程認定は「教職課程認定審査基準」 等に基づいて行われますが、開講すべき科目 の具体的な内容基準は明示されていません。

社会的背景

- ・社会から「教員の質の確保」が強く求められています。
- ・そのため、教員養成を目的とする大学に対して、教員として必要な資質・能力を備えた学生を送り出すための質の高い教育活動が求められています。

学会の使命として具体的に提案・実施

①大学の講義内容の基準化

- ・知識や技能および教育実践力などの講義内容 の具体的な修得基準を作成しました。
- ・基準を踏まえた講義づくりを各大学で進めています。

②認定試験の実施

- ・講義内容の修得状況の確認のために、認定試験を行っています。
- ・合格した人には認定証を交付しています。

①修得基準の作成と大学の講義づくり

中学校の必修教科「技術」の教員になるためには何をどこまで修得すればよいのか。

そこで教員になるために学習し、身に付けなければならない「知識」「技能」「指導技術」についての基準を第三者機関の学会が全国で初めて作成しました。修得基準は、「知る」「できる」「教える」の3つの要素で構成されています。

基準化することで、一定レベルの質の保証を行い、さらに、そこに各大学が独自の内容を追加することにより、他の大学に見られない特色あるカリキュラムを構築することで、大学の特色を出すことができます。

知る

できる

教える

②学習成果を定量評価する認定試験を行っています

教科「技術」を担当する教員の力量を確認する試験が「技術科教員指導能力認定試験」です。 この試験は、2008年度に創設された国内初の教員の指導力を学会が認定する試験です。 問題は、学会が定めた「修得基準」に基づいて作成されます。

3つの能力

1

技術(テクノロジー)に関する専門知識・理解

2

設計と製作の技能

3

授業を展開し、生徒を指導する力

認定試験

筆記・実技・模擬授業の能力を下記の一次試験・二次試験によって判定します。 試験は年1回実施され、教員として身につけておいて欲しいレベルの試験を実施します。

■ 一次試験 筆記試験

- ①技術科の専門知識を問う問題
- ②技能に関する知識を問う問題

二次試験

- ①実技試験 「設計と製作の技能」
- ②模擬授業 「授業を展開し、生徒を指導する力」

指導案の作成とそれに基づく模擬授業

中学校技術・家庭科(技術分野)の中から受験者は授業内容を選択し、事前に「指導案」をA4用紙1枚にまとめます。そして50分の授業の中から8~9分程度模擬授業を試験会場で行い、ビデオ撮影します。

二次審査委員会では、提出された指導案とビデオにより評価します。

■認定試験のスケジュール

4月上旬	
	受験応募
5月上旬	
	一次試験受験票到着
5月中旬	
	一次試験実施
5月下旬	
	一次試験結果発表
6月中旬	— \h=-\text{\rightarrow}
	二次試験実施
6月下旬	一次計除姓田科主
	二次試験結果発表
8月下旬	现中証本付
	認定証交付

■一次試験



筆記試験

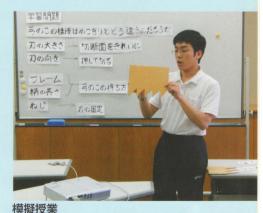
二次試験



実技試験(木材加工)



実技試験(電気)



保燥技業 授業を展開し、生徒を指導する力が判定されます。

能力を認定しています

2008年8月日本産業技術教育学会第51回全国大会(仙台) において、第1回目の認定式及び成績優秀者の表彰を行いました。この年の成績優秀者は左が坂本大輔氏(熊本大学大学院修了、熊本県立黒石原養護学校教諭)、右が小野寺俊一氏(宮城教育大学大学院修了、大崎市立古川西中学校教諭)です。



小野寺俊一氏のコメント

認定試験によって、筆記、実技、 模擬授業により客観的に自分の 教員になる上での能力を知る ことができました。教員採用 試験の力試しにはもちろん、 技術科教員として必要な知 識や技能を改めて確認する よい機会になりました。

認定された人の声

1 先生に勧められて技術科教員指導能力認定試験を受験しました。正直合格できるとは思いませんでしたが、大学での学習が十分に活き合格できました。認定試験に合格できたことは自信につながり、教員採用試験も現役突破することができました。教員としては、まだまだ新米ですがこの経験をもとに、日々努力しています。(北海道教育大学旭川校卒、

東京都品川区立鈴ヶ森中学校、遠藤弘樹)

2 自分の能力がどの程度かを第三者に評価してもらい知ることが可能になった。実技試験に関しても基本的な内容であったが、いざ本番となると思い通りにはいかず普段から練習が必要で、スキルを身につけるためには繰り返し練習することを実感することができた。認定を得たことにより、技術科教員として過ごしていく自信を身につけることが可能になると思う。

(静岡大学4年、高山大輝)

3 認定試験は自己の力量や特性を再確認できる試験であると同時に、全国の学生、現職教諭が切磋琢磨して自身のスキルを向上する一つのきっかけになると実感した。さらに、認定試験の合格は私にとって自己研鑽に努める励みになっている。今後も多くの人に受験して欲しいと願っている。

(広島大学大学院、堤健人)

4 認定試験を教員採用試験対策の一環として受験しました。教科専門に関する知識や実技における技能がどの程度であるか把握する上でとても役に立ちました。特に、実技でのウィークポイントを知り、その対策ができました。おかげで、複数の教員採用試験に合格できるとともに、第一志望に採用が決まりました。この認定試験は、大きな自信に繋がったと思います。
(福岡教育大学4年、松島光)

5 認定試験については、教員採用試験勉強や対策を立てる大きな指針となった。他県・他大学の学生の雰囲気や、他大学の先生と関わる中で受けた刺激も大きく、地域を超えたつながりを得ることができた。認定試験に合格したことは、自分に自信をつけるとともに、教員志望を強くし、のちの教員採用試験合格に大きく影響するものであった。

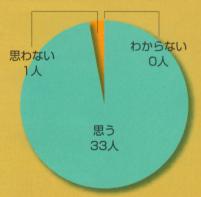
(熊本大学大学院、古庄理史)

6 認定試験制度は、自分の能力を磨き、さらに向上するきっかけになりました。特に、教員採用試験の直前対策としても役立ち、教員志望の学生にとっては有意義なステップだと思います。私は、認定試験に合格したことで、現在の職場で技術科教師として教壇に立つ自信につながっています。これからも多くの学生に受験してもらいたいです。(鹿児島大学卒福岡県糸島市立志摩中学校姫島分校 前鹿川夏姫)

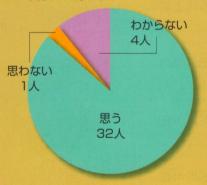
アンケートの結果から

これまでに技術科教員としての指導能力を認定した71名を対象にアンケートを実施(回答率52.1%)しました。その結果、認定試験に意義を感じ、教員採用試験対策にも役立ったようです。また、技術科教員を目指す学生にはぜひ受験して欲しいと思っていることがわかります。

認定試験を受験したことは意義がある



技術科教員を目指す大学生は 受験した方がよい



大学教員から

広島大学では、『職業的専門能力の育成、教育内容に関する基礎基本的な知識と技能の獲得、優れた教育実践力の育成』を到達目標とする教育プログラムを設定しています。これに基づいて授業を提供していますが、とくに教科内容系の授業は単なる専門的知識の伝授に終わることなく、技術科教員としての職業的専門能力の基礎となるように十分留意しながら教育を行っています。学会の認定試験に多くの合格者が出たことは、日頃の教育の成果と考えています。

教育委員会から

学会が技術科の教員としての資質を評価し、認定を行う制度は教育の質を向上させる大変すばらしいものだと感じています。本県にも認定を受けて教員になった人が数名いますが、採用試験の時も履歴書に記載されていましたので質問すると、その趣旨や学生の時に受験した理由について、自信を持ち答えていたのが印象的でした。初任者研修でも積極的に受講しており、今後の活躍に期待しています。(県教育委員会指導主事)

これまでの実施状況

□ 2008年度 受験者数:72名/合格者数:17名(現職3) □ 2009年度 受験者数:80名/合格者数33名(現職4) □ 2010年度 受験者数75名/合格者数:21名(現職1)(括弧内は内数)

平成17・18年度、科学研究費補助金課題番号17530655、技術科教員養成での修得基準の作成及びその基準による検定制度と競争的教育環境の構築平成19~22年度、科学研究費補助金課題番号19330200、技術科教員養成での学習成果を定量評価する「能力認定試験制度」の導入とその検証